

# 地域で子どもを 育てよう

※PJ=プロジェクト

「学校がもたない」「スポーツと文化ももたない」と2か月連続ネガティブな内容だったので今月は「ではどうするか？」という内容をお伝えしたいと思います。と言ってもらうかはおもうタイトルに書いてあるとおりです。「地域で子どもを育てよう」これしかありません。具体的にとのようないきまを説明していきます。

## 先生じゃなくても

学校の授業は教員免許を持った「教員」でなければ教えられません。でも、先生の仕事は授業だけではありません。授業以外にも事務的な仕事や対外的な業務、行事の準備や運営など色々なものがあります。もし、それらの中に先生

じゃなくてもできるものや手伝えるものがあるなら負担は軽くなるかもしれません。例えば、

- ・運動会など学校行事の地域サポート
- ・登校時に交通安全、見守り
- ・総合的な学習の時間の授業サポート（米学習や安平川学習など）

既に取り組んでいるもの以外にも何か考えられるかもしれません。文部科学省では、先生や学校の業務を大きく3つに仕分けています。これも参考になるでしょう（左ページ参照）。

## スポーツや文化は町全体の視点で

スポーツや文化活動がもたない話は先月にしました。この部分は学校や部活動だけの

話ではなく、町全体の視点で考えることが大切だと思えます。スポーツ環境、文化環境は中学生の部活動だけではなく小学生の少年団や大人も同じだからです（文化協会の活動など）。世代を超えてスポーツや文化に親しめるまち。地域にスポーツや文化が根ざすまち。そういったまちをつくっていくためには、NPOや団体が学校を含めてつながっていくことが必要になってきます。

## 子どもが育つのは学校だけ？

「学校にお願いしよう」「学校で教えてもらおう」「学校に…」子どもが集まる場所は学校なので、つつい何でも学校に相談してしまいがちです。もちろん地域と学校のつながりを考えると大切なことですが、本当に学校じゃなくてはダメでしょうか。子どもが育つのは学校だけでしょうか？

安平町の強みは、地域社会が行う「社会教育」です。

- ・放課後子ども教室
- ・土日の子ども向け公民館イベント

- ・地域の子ども会活動
- ・遊育やあびらぼといったあびら教育プラン

学校がすべてではなく、学校が地域とつながり、学校が小さなまちになる。地域が学校とつながり、まちが大きな学校になる。ここで、5月号で紹介した地域学校協働本部につながります。そして、その根底にはCFCIの考えがあります。

